

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	270人	社会	271人	数学	270人
	理科	271人	英語	271人		

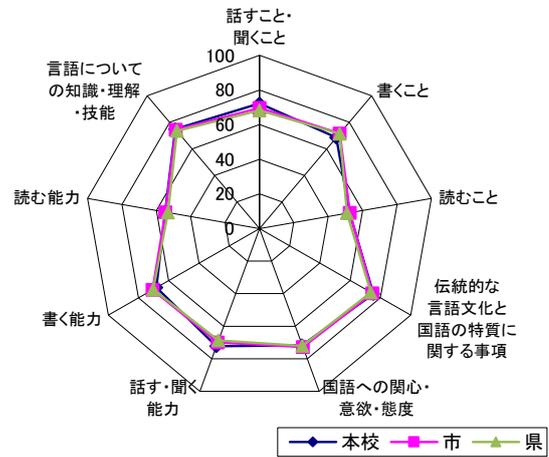
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	72.2	69.6	68.2
	書くこと	68.6	71.7	71.5
	読むこと	52.4	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.4	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	71.7	72.8	72.1
	話す・聞く能力	72.3	69.9	68.7
	書く能力	68.2	70.7	70.3
	読む能力	54.8	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	74.9	74.5	73.5



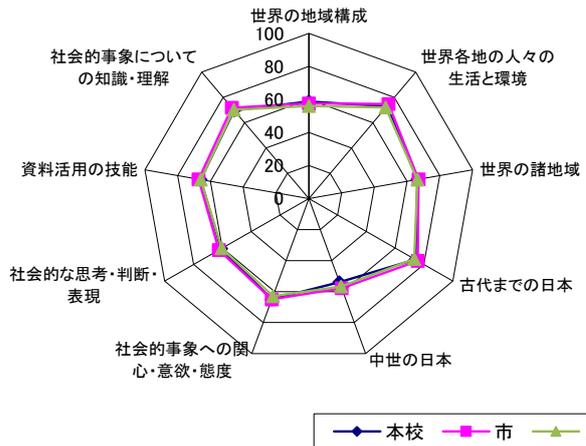
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
話すこと・聞くこと	○正答率は県平均を4.0ポイント、市平均を2.6ポイント上回っている。 ●「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取る」設問は54.1ポイント、「話の構成を工夫して相手にわかりやすく伝える」設問は52.6ポイントと県及び市平均を上回っているが、同領域の他の設問の正答率を大きく下回った。	・授業での話し合い活動の中で、相手の話を聞いて内容を理解する力は身に付いているが、より相手に伝わりやすくするための構成を工夫する力や聞き取る力がまだ不十分である。今後は、話す内容の順序や起承転結などを意識して話し合いができるよう指導していきたい。
書くこと	○「書いた文章を読み返し、わかりやすい文章にする」設問では、県平均を3.3ポイント上回っている。 ●正答率は県平均を2.9ポイント、市平均を3.1ポイント下回っている。特に、「読み取った内容を明確にして書く」設問では、県平均を6.6ポイント下回っており、「書く」ことに苦手意識を持っている生徒が多い。	・文章や資料から読み取ったことを書く力を定着させるために、文章や資料のどこに着目するかなどについての指導を行い、文章や資料から読み取る形式の作文を書く活動を取り入れていきたい。 ・授業の中で短作文を書く機会を増やし、文章を書くことに慣れさせるとともに、「書く」学習の際には丁寧な添削指導を心掛け、苦手意識の解消に努めたい。
読むこと	○正答率は県平均を1.4ポイント上回っている。特に、「文章の展開をとらえてその内容を整理する」設問では、県平均を5.5ポイント、市平均を3.8ポイント上回っている。 ●正答率は市平均を0.2ポイント下回っている。特に、文学作品の内容における「文章の構成や展開をとらえる」設問では県平均を2.0ポイント、市平均を2.3ポイント下回っている。	・授業の中で、比較的短い説明文の構成に着目させることで、文章の構成をとらえる力を身に付けさせたい。 ・文学作品では、場面の展開や心情を映し出す描写等に注目させ、論旨を正確に読み取ったり、登場人物の心情を読み深めたりする力を育てたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は県平均を1.7ポイント、市平均を0.6ポイント上回っている。特に、「文節の関係について理解する」設問では県平均を5.9ポイント、市平均を2.9ポイント上回っている。 ●「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」設問では、県及び市平均を5.7ポイント下回っている。	・小学校で学習した漢字で一部、市・県平均の正答率を下回っていたものがあつたため、新しく習う漢字だけでなく、既出の漢字についても、小テスト等を行い、基礎学力の定着を図りたい。 ・「歴史的仮名遣い」については、「現代仮名遣いに直すこと」と「現代語訳すること」を混同しないように注意させ、繰り返し古文の音読をさせることで定着を図りたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	58.7	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	72.9	74.6	71.9
	世界の諸地域	66.4	67.0	66.3
	古代までの日本	74.1	75.7	73.3
	中世の日本	53.9	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	65.0	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	60.8	62.5	60.5
	資料活用スキル	66.0	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	69.8	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

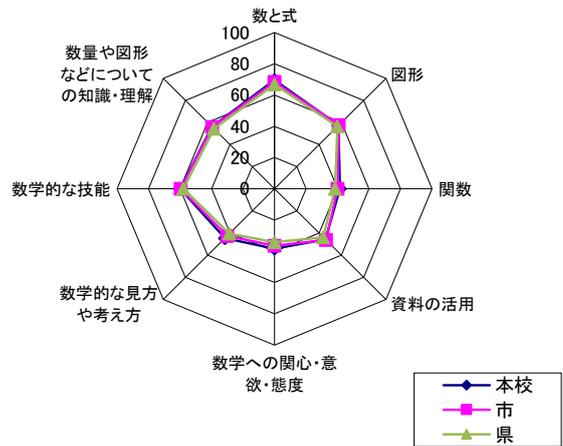
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○正答率は県平均を2.7ポイント、市平均を1.1ポイント上回っている。特に、「地図中の緯度と経度を読み取る」設問では県平均を3.6ポイント上回っている。 ●「世界の地域区分」を説明する設問では0.2ポイント、「緯線と経線が直角に交わる地図の特色」に関する設問では0.3ポイント、市平均を上回っているに留まっており、特に説明したり比較したりする設問での正答率が低い。	・複数の資料を比較する学習や資料から読みとって適切に説明する学習を重点的に行い、説明する手順や言葉の使い方などを段階的に指導していくことで、説明する力を身に付させたい。
世界各地の人々の生活と環境	○正答率は県平均を1.0ポイント上回っている。 ●正答率は市平均を1.7ポイント下回っており、特に、「世界各地の生活の様子について自然環境と関連づけて把握する」設問では、市平均を5.8ポイント下回っている。	・世界の様子を視覚的に捉えさせるために、資料集、ICT教材を活用し、資料を読み取る力を身に付けさせたい。 ・基礎的・基本的な事項に関する小テストを繰り返し実施することで、知識及び技能の定着を図りたい。
世界の諸地域	○正答率は県平均を0.1ポイント上回っており、特に、「アメリカ合衆国の農産物の生産や輸出について資料をもとに判断する」設問では5.7ポイント、「ヨーロッパ州の農業の特色について複数の資料をもとに考察する」設問では8.7ポイント、県平均を上回っている。 ●正答率は市平均を0.6ポイント下回っており、特に、「西アジアや中央アジアの産業」に関する問題は4.7ポイント、「世界各州の産業の特色について複数の資料をもとに判断する」設問では7.3ポイント、市平均を下回っている。	・複数の資料を提示し、それぞれの資料を比較したり読み取ったことを説明したりする力の定着を図るとともに、資料を正確に読み取って分析した内容を自分の言葉でまとめて表現できるよう指導していきたい。 ・教科書の重要語句や授業内容をまとめたノート、ワークブックを再度見直しさせるなど基礎的・基本的な事項の習得を図りたい。
古代までの日本	○正答率を県平均と比較すると、0.8ポイント上回っている。 ●「渡来人について理解している」の設問では市平均を4.3ポイント、「藤原氏による摂関政治」の設問では市平均を4.9ポイント下回っている。	・歴史上の人物が関係した作品や逸話、現代との関わりなどと関連させて説明することで、生徒の興味・関心を高めたり、文化や時代の特徴を当時の人々の具体的な生活とのかかわりを具体的に考えさせたりするなど、指導の工夫に努めたい。 ・時代の全体像や他の時代との違いが明確になるよう、単元を通して振り返る学習の定着を図りたい。
中世の日本	●正答率を県平均を2.8ポイント、市平均を4.0ポイント下回っている。 ●「中世の諸産業の発達について定期市を理解している」か問う設問では18.4ポイントであり、県平均を大きく下回っている。	・歴史的事実の相関関係を全体的に把握させたり、各事象の関係性を整理し、歴史の流れを捉えさせたりすることで、基礎的・基本的な事項の定着を図りたい。 ・各事象の概要とそれぞれの時代の特徴を形成する原因等について、時代の流れを追って、自分の言葉で説明できるよう指導していきたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	69.6	68.4	66.8
	図形	57.5	57.8	56.5
	関数	41.5	40.1	38.5
	資料の活用	45.7	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	38.3	36.4	34.1
	数学的な見方・考え方	44.6	42.5	40.5
	数学的な技能	59.9	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	56.1	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

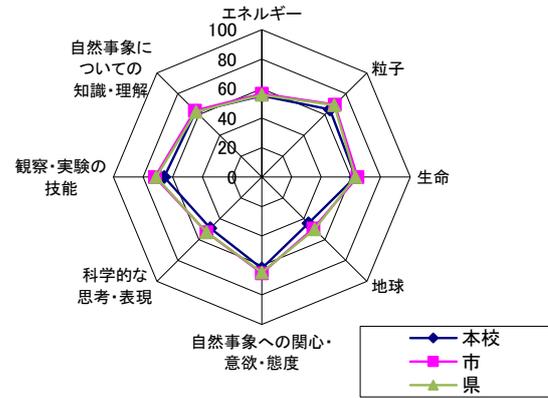
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は県平均を2.8ポイント、市平均を1.2ポイント上回っている。 ●「1次式の減法」に関する設問では県平均を4.8ポイント、市平均を5.0ポイント下回っている。また、「与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することができる。」の無答率が34.1ポイントであったことから、文章から必要な情報を読み取り、立式することを苦手とする傾向が見られる。	・授業の中で小テストや確認テストを行い、学習内容の定着を図るとともに、生徒の理解状況を把握しながら、指導の充実に努めたい。 ・立式については、言葉の式を利用したり、式の意味を読んだりする学習を重点的にやりたい。
図形	○正答率は県平均を1.0ポイント上回っている。 ●正答率は市平均を0.3ポイント下回っている。特に、「線分の垂直二等分線を作図し、三角形の面積を2等分する直線を作図する」設問の正答率が22.6ポイントであり、この領域の中では一番低く、県平均を0.1ポイント、市平均を0.8ポイント下回っている。	・デジタル教科書を利用した授業を増やすとともに、具体物を用いた学習活動を展開することで理解しやすくし、学習内容の定着を図りたい。 ・作図と三角形の面積の問題は、面積は何が分かると求められるかを考えさせた後に、作図方法を考えさせることで理解を深めさせたい。また、作図方法については、基本となる作図については、意味とともに作図方法を繰り返し指導することで理解を確実なものとしていきたい。
関数	○正答率は県平均を3.0ポイント、市平均を1.4ポイント上回っている。 ●「与えられた式から問題を解決する方法を数学的に説明する」設問の無答率は47.0ポイントと高く、約半数の生徒が答えられなかった。	・関数の特徴を見いだすのに、表、式、グラフを関連させて考えるのが有効であることをおさえ、伴って変わる2つの数量の変化や対応を、表、式、グラフによって表現する能力を問題練習を通して身に付けさせたい。 ・身近にある事象を例に、表・式・グラフを相互に関連付けて関数について調べる能力を伸ばすことを重視した指導に努めたい。また、そこから派生または類似した問題を練習させることで、表、グラフ、式の活用の仕方を身に付けさせたい。
資料の活用	○正答率は県平均を1.9ポイント上回っている。 ●正答率は市平均を0.6ポイント下回っている。「度数分布表から、階級の相対度数を求める」設問では県平均を1.3ポイント、市平均を6.1ポイント下回っている。また、「度数折れ線の特徴を読み取り、説明すべきことについて数学的に説明する」設問の正答率は22.0ポイントであり、県及び市と同程度であるが、無答率は41.5ポイントと高く、数学的に説明する力が不足している。	・1つの資料を基に意図的、継続的に課題設定と解決を繰り返しながら、階級値、ヒストグラム、相対度数、最頻値、中央値、平均値、範囲などの基本用語の意味と使い方を身に付けさせたい。 ・2つことがらを比較するような資料を用意し、個人活動、グループ活動、全体での話し合い活動へと段階的に発展させる展開を行うとともに、コンピュータなどを利用して処理し、資料の傾向をとらえ説明することを体験させ、比較検討の仕方を身に付けさせたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	55.2	56.6	55.8
	粒子	64.8	69.6	69.0
	生命	63.0	64.4	63.0
	地球	44.3	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	62.0	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	49.1	52.8	52.8
	観察・実験の技能	65.8	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	63.0	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

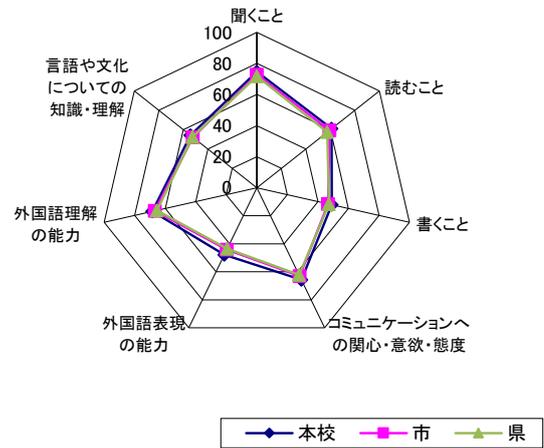
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「虚像についての理解」に関する設問では、県平均を8.0ポイント上回っている。 ●正答率は県平均を0.6ポイント、市平均を1.4ポイント下回っている。 ●「バネがおもりを引く力を矢印で表す」設問では、正答率が16.6ポイントと非常に低い。	・多くの生徒は観察・実験に意欲的に取り組んでおり、今後は、身近な物理現象に目を向ける機会を多く設け、目に見えないものを視覚的に表現して考えさせていきたい。また、繰り返し計算問題に取り組むことで力の大きさや圧力の大きさを求められるよう指導していきたい。
粒子	○「二酸化炭素の気体の確認方法」を問う設問の正答率は8割を超えている。 ●正答率は県平均を4.2ポイント、市平均を4.8ポイント下回っている。 ●「水溶液の性質」に関する全ての設問において、県平均を10ポイント以上下回っている。	・意欲的に実験・観察に取り組む反面、実験器具の操作方法、順序を正しく身に付けていない生徒が多いので、実験を通して実験器具の使い方や注意事項を正しく身に付けられるよう指導していきたい。 ・物質は粒子でできているという粒子概念をもたせるためにもモデルや図を用いる。その粒子概念をもとに、析出する結晶や質量パーセント濃度についてのイメージをもたせ、基本的な学習内容の定着を図りたい。
生命	○「植物の分類において分類する特徴」に関する設問の正答率は7割を超えている。 ●正答率は県平均と同程度であるが、市平均を1.4ポイント下回っている。 ●「ルーペの使い方」を問う設問では県平均を7.3ポイント下回っている。また、「イチゴの分類」に関する設問では、正答率が49.8ポイントと低い。	・重要語句や基礎・基本的な内容は概ね定着している生徒が多いので、今後は既習事項から考えを深める活動を多く取り入れ、応用力や思考力を高めていきたい。 ・観察器具の扱い方を確認するとともに、様々な生物を比較して見いだした共通点や相違点を基にして分類できることを理解させることで、分類の仕方や基礎を身に付けさせたい。
地球	●正答率は県平均を5.9ポイント、市平均を4.9ポイント下回っている。 ●「化石から地層が堆積した当時の環境や自体で推測する」設問では22.9ポイント、「凝灰岩の層があることから火山の噴火があったことを考える」設問では34.3ポイントと正答率が低い。	・近年の日本での火山活動や地元の大谷石など身近な話題に触れ、興味・関心を高めさせたい。 ・地層の成り方など、堆積の仕方から整理し、環境を読み取る問題を理解させるとともに、化石や火成岩の観察を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図りたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	74.7	72.8	71.8
	読むこと	61.0	59.4	57.5
	書くこと	49.1	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	65.7	63.0	62.2
	外国語表現の能力	47.8	44.2	43.6
	外国語理解の能力	68.4	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	54.1	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○正答率は県平均を2.9ポイント、市平均を1.9ポイント上回っている。特に、「対話の内容を聞き取り適切に回答する」設問の正答率は県平均を10.1ポイント上回っている。</p> <p>●「英文の要点を聞き取る」設問における正答率は県平均と同程度であり、特に、「バレーボールが上手な人」を選択する設問においては、県平均を1.2ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語や短文であれば、内容を理解することができるが、対話文や長い英文の聞き取りになると、理解できない生徒もいる。授業の中で、会話のやりとりを続けられるようにしたり、ある一定の英文を聞いて、どのようなことを言っているかを大まかな内容を理解したりする活動を多く取り入れるなど、指導の充実に努めたい。 ・英文の使用場面をイメージさせたり、ピクチャーカードやデジタル教科書の視覚教材を用いて内容についての問答をしたりすることで、理解力の向上に努めたい。
読むこと	<p>○正答率は県平均を3.5ポイント、市平均を1.6ポイント上回っている。特に、「所有代名詞の語形・語法」に関する設問では、県平均を8.8ポイント上回っている。</p> <p>●「メールの内容の把握」の問う設問の正答率は、県平均を1.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文の中で出てくる代名詞は何を指しているかを考えながら読んだり、教科書の音読を繰り返し行ったりすることで、内容理解をしながら読む活動を多く取り入れたい。 ・長文の問題は、数多く読むことが大切なため、様々なジャンルの英文をたくさん読む活動を取り入れるとともに、和訳ではない内容理解の方法、Q&Aなどを使って理解を深めさせたい。また、ワークブックやプリントを効果的に使って長文の読み取り問題を多く解く等、練習量を増やしていきたい。
書くこと	<p>○正答率は県平均を1.8ポイント、市平均を2.5ポイント上回っている。</p> <p>○「自分がよく行く場所についてまとめた内容で紹介する文を書き表す」全ての設問において、県平均を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●「単語を正しく書く」4つの設問のうちの2つ、「疑問文の語順」に関する設問の正答率は、県平均は10ポイント以上下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文法や語順の理解の定着を図るために、熟語や基本文を覚えたり、基本文を使って、自分のことを英文で表現したりする練習を多く取り入れたい。 ・単元のまとめとして、あるテーマに沿った英作文を3文書けるよう練習したり、習った単語や文法を使って適切に英文で表現したりできるよう支援していきたい。 ・英作文を書く力については個人差が大きいので、個別に指導をしていく必要がある。TTの時間を有効に活用し、ALTからの助言や辞書の使用を促進するなどの指導に力を入れたい。

宇都宮市立陽東中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【良好な状況が見られた項目】

○本校の肯定的な回答の割合が9割を大きく上回っている項目は、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」「授業を集中して受けている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのみまりなどを決めていと思う」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」「毎日朝食を食べている」「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」であった。
○「家で学校の授業の予習をしている」という項目の肯定的回答は、県平均を7.6ポイント、市平均を2.4ポイント上回っており、積極的に家庭でも授業の予習に取り組む生徒が多い。
○「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という項目の肯定的回答は、県平均を6.7ポイント、市平均を0.5ポイント上回っており、自分に合った自主学習を工夫している。
○勉強に対する意欲や好奇心が高く、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という項目の肯定的回答は、県平均を5.2ポイント、市平均を1.3ポイント上回っている。

【課題が見られた項目】

●「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」という項目の肯定的回答は、県平均を0.5ポイント、市平均を5.8ポイント下回っている。日頃より、テストで間違えた問題をやり直す大切さは説いているが、定着には至っていない。テスト返却時に解説を聞くだけでなく、分からなかった問題を何度も繰り返し解くことが理解につながることを助言していきたい。
●学習する習慣を身に付けるためにも、毎日同じ時間帯に学習することが望ましいが、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」という項目の肯定的回答は、県平均を3.8ポイント、市平均を2.4ポイント下回っている。これからも家庭との連携を図りながら、学習習慣の確立に向け、協力を呼びかけていきたい。
●社会に目を向けることも必要なことであるが、「新聞を読んでいる」という項目の肯定的回答は、県平均を1.9ポイント、市平均を1.2ポイント下回っている。新聞を読むことで、社会の出来事や動きに興味・関心をもったり、内容を理解しながら文章を読む力や語彙力が身に付いたりすることに気付かせる指導に努めたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら進んで表現できる生徒の育成	①基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ②主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 ③個に応じたきめ細やかな指導の充実	①各教科における平均正答率が県及び市平均と同程度であったことから、概ね基礎的・基本的な知識及び技能は身に付いている。しかし、理科については、無答率の割合は低いが県及び市平均を下回る領域があり、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着には至っていない。 ②話し合い活動に関する項目については、約9割が肯定的回答をしていることから、主体的・対話的な学びができており、より深い理解につながる学びの実現に向けた授業改善が進められている。 ③「先生は学習のことについて褒めている」という項目では「はい」の割合が45.9ポイントと一番多く、県平均を13.0ポイント、市平均を6.3ポイント上回っている。また、「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」という項目で約7割が肯定的回答をしている。これらのことから、褒めて伸ばす教育、何でも授業中に質問できる授業の雰囲気づくりに努め、きめ細やかな指導を行っていることが分かる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
困難な状況にあっても、他と協働しながら意欲的に取り組もうとする態度を育てること	難しい課題にも諦めずに取り組もうとする意欲	「分かる・できる」と実感できる授業づくりを心掛け、学校行事や日々の活動の中で成功体験や自己肯定感を積み重ね、粘り強く課題に挑戦する意欲や課題解決能力を身に付けさせる。